**街頭宣伝例**（野党は批判ばかり）　2021年12月12日

ご町内のみなさん、こちらは日本共産党です。この場所から訴えをさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いします。

みなさん、岸田内閣は、大軍拡をすすめ、「敵基地攻撃能力の保有」、憲法改悪など、安倍・菅政権でもできなかった危険な道に踏み込もうとしています。コロナの給付金は困っている人に届かず、公立・公的病院の統廃合を進めています。命と暮らしを守り、憲法９条を守り、生かす運動がいまこそ求められます。日本共産党は、みなさんとごいっしょに、全力でがんばります。どうぞ、よろしくお願いします。

ところで、こうした主張にたいし、「野党は批判ばかり」というキャンペーンがおこなわれています。しかし、これは、事実と全く異なり、自民党がどんなに間違った政治をやっても「黙って従え」といわんばかりの暴論です。

「批判ばかり」どころか、野党は、国民の切実な願いに立って、さまざまな提案を行い、実現させてきました。たとえば、コロナ対策です。政府が、検査をすれば医療が崩壊するなどといって、ＰＣＲ検査をおさえようとするなかで、医療機関や高齢者施設などへの「社会的検査」、繁華街などの「大規模・地域集中的検査」など具体的な感染抑止のための検査戦略を提案し、検査拡充を実現してきました。

“自粛と補償は一体に”を合言葉に、粘り強い論戦を続け、一人10万円の特別給付金も実現しました。コロナで苦境ある業者への「補償はできない」との政府・与党に対し、国民生活の危機を訴え、「持続化給付金」や「家賃支援給付金」などの支援制度が実現し、失業の広がりを防ぐための「雇用調整助成金のコロナ特例措置」の実施なども野党の要求に基づくものです。今なお、こうした休業補償や支援を一度きりにせず、再支給をと繰り返し提案しています。国民の命と暮らしを何よりも大切にするあたたかい政治をつくるためには、こうした政府の対応への批判こそ必要ではないでしょうか。

コロナ対策以外でも、３５人学級実現、「原発ゼロ基本法案」、「選択的夫婦別姓法案」、消費税率５％引き下げなど提案してきました。

森友学園問題や「桜を見る会」疑惑など国政私物化も批判してきました。いずれも、ウソや忖度（そんたく）のないまともな民主政治を取り戻すためです。弱肉強食の政治を厳しく批判しているのは、国民の命、暮らし優先の政治をつくるためであり、９条改憲や大軍拡を批判するのは、９条を生かした平和外交で世界平和に貢献する日本をつくるためです。どんな問題でも、古い政治を批判してこそ、新しい政治をつくることができるのです。

　ジャーナリストの青木理さんは、「行政権力や時の与党に対する批判、監視機能は野党勢力が担うべき最大の役割」と指摘しています。

　みなさん、「野党は批判をするな」は「国民は批判をするな」と言っているも同然です。「聞く耳」どころか、国民の声に耳をかたむけず、安倍・菅政権もできなかったことをする、危険な岸田政権を包囲し、政権交代を大きな世論にしていこうではありませんか。

7月には参議院選挙があります。日本共産党への大きなご支援をお願いし、この場所での訴えをおわります。ありがとうございました。